

キャラクター名 宇賀恵令奈	プレイヤー名
------------------	--------

シンドローム	エンジェルハイロウ モルフェウス	ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	大学生
オプション		年齢	18+1	性別	female
覚醒	生誕	衝動	加虐	初期侵食率	32%
出自	両親の不在	経験	平凡への反発	邂逅	家族

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	17
感覚	5	1	2			8	(非装備時)	17
精神	1	0	0			1	戦闘移動	22
社会	1	0	2			3	全力移動	44

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	10		RC	1		交渉		
回避	10		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	9
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
撃鉄の天使Sfyr□-angelos	射撃	12r+10		13		クリ値8 侵食率7
撃鉄の天使psi.ma-angelosアセマ-アングロス	射撃	13r+10		23		クリ値8 侵食率12
撃鉄鳴らせ血塗れ少女Sfyr□-haima'スファイリ-ハイマ	射撃	14r+10		60		クリ値7 侵食率20 装甲無視 シナリオ3回
-GIGAS		0				範囲選択にして使用武器破壊

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
垣根帝国	P 慕情	N 嫉妬		
折手凜	P 友情	N 嫉妬		
生還者	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	6	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:エンジェルハイロウ	2	2	メジ					
効果:	クリティカル-lv							
ハンドレッドガンズ	1	3	マイ					
効果:	シーン間射撃武器,A+[Lv+4]							
見えざる死神	3	2	メジ					
効果:	隠密時判定ダイス+1,A+[Lv*3]							
小さな塵	4	2	メジ					
効果:	A+[lv*2]							
クリスタライズ	3	4	メジ				100	
効果:	A+[Lv*3],装甲無視							
マスビジョン	3	4	メジ				100	
効果:	A+[Lv*5]							
ギガンティックモード	1	3	メジ					
効果:	範囲選択化、使用武器破壊							
砂の加護	3	3	オート					
効果:	オートでD+[Lv+1]							
陽炎の衣	2	3	マイ					
効果:	隠密状態になるシーンlv回							
ウサギの耳	★							
効果:								
無上厨師	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

アナスタシアと同じ高校に通う高校3年生。その見た目から、学校では遠巻きに眺められていることが多い。
 正体はUGNギリシャ支部で育てられたチルドレン。
 元々FHに所属していたピュアのモルフェウスとピュアのエンジェルハイロウでの交配実験により生み出されており、そのままFHで育成される予定であった。しかし、両親は我が子をいとしく感じてしまった。両親は我が子を守るためにFHから脱走し、極東の日本で平穏に暮らすことにした。
 我が子が自身の力におびえることの無いよう、両親はUGN日本支部に依頼し、「習い事」と称して少女を訓練させていた。その結果、幼少期から2つのシンドロームを使うことができる才能が開花したのであった。
 当時の支部長はUGNの中で過激派に属するものであり、常日頃からFHの醜悪さ、UGNの思想の気高さを語っていた。
 そんな環境の中では、たまに傷だらけで帰ってくる父親の心配をしているような純粋な少女が、FHへの凄まじい憎悪を内に秘めていることに気づく者など一人もいなかった。
 少女は15歳になり、高校入学を控えていた。我が子を守る両親は決意し、今まで伝えていなかった家族の出自を語った。
 「私たちは元FHで、お前はピュア同士の交配実験により作り出されたんだ。だが、私たちは生まれてきたお前が愛しくて、お前を連れて日本に逃げ出した。今まで習い事としてやっていたのは今からのためだ。…お前も高校生になってからはUGNチルドレンとして私たちと一緒にFHから秩序を守らないか？」
 …ああ、あの教官の怒声が頭の中で反響する。
 『FHは害悪と呼ぶのも生温い』
 『我らの思想は世界の秩序のためである』
 『FHなど生きている価値もない、即刻殺せばその場で英雄だ！』
 『お、おいどうしたXXXX。なんで今銃を具現化してるんだ…？』
 「だ、だめよ。私たちはもうFHじゃない！あなたを愛して…」
 『FHの言葉に耳を傾けるな！奴らは甘い言葉でお前たちのような子供を掌で転がすのだ。』
 起こした撃鉄が酷く不愉快に鳴り響く。
 『お前は特に聞いておけよXXXX、お前を愛してるなんて戯言だ。』
 『いいか。そんな甘い文句を平気で言うクソ共の口にはな、』